

●JCOMM マネジメント賞

「観光・まちづくりと一体となった地方鉄道再生」

～需要追従型から需要創造型のマネジメントへ～

北近畿タンゴ鉄道 生活交通改善事業計画に関する協議会

京都府北部の丹波、丹後地域と兵庫県北東部の但馬地域を走る北近畿タンゴ鉄道は、利用者数と運輸収入がいずれもピーク時の約3分の2まで減少するなど経常損失の拡大に歯止めがかからず大変厳しい経営状況に追い込まれていた。廃線も含めたあり方が議論されたが、いま一度再生に向けて、抜本的な経営改革と収支構造の改善を図る鉄道事業再構築に地域全体で取り組み、平成27年4月に京都丹後鉄道として新たなスタートを切った。

人口減少・少子高齢化の進展など地方鉄道を取り巻く環境は厳しさを増す中、地方鉄道の再生を図るには需要追従のこれまでのやり方を見直し、需要を創造することが重要である。まちづくりの視点から地域全体のマネジメントを行うとともに時代にふさわしい設備整備が必要となる。

そのため、「海の京都」による観光まちづくり、市町域を越えた都市機能の相互補完を進める京都府北部地域連携都市圏づくりとともに、北近畿タンゴ鉄道の経営体制の刷新に取り組んできた。具体的には、「海の京都」によるデザインマネジメント（デザイン車両の導入等）、駅舎の改修、観光地の修景整備、新たな周遊ルートの整備、北近畿タンゴ鉄道の上下分離方式の導入、使いやすいダイヤづくりなどを官民が連携して実施してきた。

その結果、沿線地域では民間の設備投資が進み、平成27年4月に京都府北部地域連携都市圏の関係首長による形成推進宣言がなされた。京都丹後鉄道の開業初年度の利用者数は②6184万人→②7187万人(対前年度比約102%)となり、5年ぶりに前年度実績を上回った。観光・まちづくりと一体となって沿線の交通需要創造を進めるこれまでにない地方鉄道の再生の取組が地域に活力と希望をもたらしている。

－JCOMM 実行委員会から－

地域公共交通網形成計画に、観光による公共交通・地域再生を位置づけた地方鉄道再生の先駆的な取組であり、ハードとソフトの連携、行政内部および民間も含めた幅広い連携など、地方の鉄道の活性化・再生において参考すべき内容が多く含まれている点が高く評価され、JCOMM マネジメント賞として選定されました。